

会議記録(概要)

会議名	令和5年度第1回三田市総合文化センター運営評価委員会
日時	令和5年5月15日(月) 10時30分から12時00分
場所	三田市役所3階 303A会議室
出席者	関谷副委員長、山本委員、山口委員、林委員、鏑木委員、加藤委員
事務局等	(地域共創部) 印藤部長 (市民協働室) 横溝室長 (文化スポーツ課) 下山課長、堀係長、上野
指定管理者	北村館長、浅田、菊田
添付資料	次第、資料A、資料B、資料C、資料D
傍聴者	なし

会議概要

- 1 開会 (10:30~)
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介・事務局紹介

【委員長代理あいさつ】

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類へ移行となり、今後は様々な方がホールへ行かれることと思う。ホールとして、新しい取り組みを進める一方で、社会情勢を鑑み、今後は催事の量よりも質を高めていくことが重要であると考えている。

4 確認事項

- (1) 会議の招集・成立について / 6人出席・成立
- (2) 会議の公開及び会議録の取り扱い / 公開：個々の発言者名は記載しないこと
で了承
- (3) 指定管理者の招致について / 了承

5 協議事項

・令和4年度年間運営評価について【資料A、B、D】

指定管理者より、令和4年度事業報告について説明。

委員長代理：各委員の評価シートの内容について共有したいと思う。個人的に取り上げたい点は2点あり、1つは、文化振興事業の質が高い点である。アンケート結果から、来館者が文化振興事業の内容に強く興味を惹かれていることが伺えた。もう1点は、情報提供の方法についてである。最近では、SNSに力を入れることが重要視されているが、現状は、紙媒体から情報を収集する来館者が多いため、紙媒体の充実、もしくは、SNSと紙媒体の併用を上手く考えていかなければならないと感じた。

委員：モニタリング時に印象に残ったことを評価シートにも記載した。ジャズラテンフェスティバル、オールディーズ等、文化庁補助対象事業の公演が顧客に大変好評であり、収支状況も良かった。この分野の公演は、今後しばらくは集客力

があると思われるため、引き続き企画編成に期待したい。また、青少年育成鑑賞事業において、児童を対象としたクラシック音楽のコンサートは文化振興のため有用であり、今後も継続していただきたいと考える。SNS に関しては、紙媒体と比

較し、コストも手間も縮小できるため、時代の流れに即し、今後も充実を図っていくべきである。

委員：三田市文化ビジョンの方針に即した、館運営を今後も期待したい。市民文化祭では、文化協会との協調のもと、新たな市民の参加が見られたため、非常に評価している。今後は、多彩な参加者のニーズに対応するうえで、スペースの割り振りや出演時間の調整などが課題となる。三田市展については、実績もキャリアも非常に長く、全国的に評価されているわりに、鑑賞者が少ない点が課題であるため、三田市民の認知を進める工夫が必要である。また、親子鑑賞事業の狂言事業は伝統芸能を若年層が体感できる良い機会となっているため、今後も継続してほしい。ボランティア育成・ホール活性化事業に関しては、社会的意義の強い取り組みであり極めて大切なことである。市民文化祭においても、健常者のみの作品展示会ではなく、障害者との共創を目指してほしい。

委員：他の委員の意見にもあるように、情報発信ツールは現代では SNS が主流となっているが、自身の子どもが学校から公演のチラシ等を持って帰ってくるのが多く、実感として、紙媒体での情報発信も有益であると感じているため、引き続き SNS とともに併用してほしい。また、以前モニタリングで狂言事業を子どもと鑑賞する機会があり、子どもには少し内容が難しいかと不安があったが、本人は非常に楽しんでおり、伝統芸能であっても子どもが楽しめるよう企画されている点に感心した。

委員：令和3年から市民文化祭の主体が文化協会から郷の音ホールへと移り、運営上難しい点が多々あったことと思う。市民の誰もが参加できる文化祭をコンセプトに行うなか、年々応募数が増えてきており、スペースと時間の割り振りが難しくなってきた。誰もが参加できる文化祭にはなったが、どのようにして参加者の満足度を高めるかが今後の課題である。一方で、観客数に伸び悩んでいる側面があり、観客の大多数は出演者の近親者が占めているため、一般の市民に広く認知してもらえるよう PR 方法に工夫が必要である。また、文化祭当日の様子を令和3年度は、ホームページで公開されていたが、昨年度は公開されておらず残念であった。アンケート内容においても、阪神北地域の方は利用料が三田市民と同じ市内料金にされている。神戸市北区の方は1.5倍の市外料金である点も気になっている。三田市で文化活動をする人の中には、神戸市北区在住の方も多いため、神戸市北区も阪神北地区と同様、近隣市域扱いとすべきと考える。

委員：高齢者層に公演内容を知ってもらうには、SNS などの電子媒体よりも、回覧板のような紙媒体を活用したほうが良いかもしれない。

委員：情報の伝え方は非常に難しい。市では広報誌、郷の音ホールでは Sato-Net など情報発信ツールは充実しているが、受け取った人が必ずしもその記事を読んでいるわけではない。

委員：高齢者にとっては、多様な情報が大量に記載された情報誌よりも、特定の公演のみを掲載したチラシ等の方が分かりやすい。電子媒体であっても、紙媒体で

あっても、市民への伝え方が大事であると考えてる。

委員：三田が舞台となった映画や公演は高齢者の目を強く惹くものであるため、積極的に上映してもらいたい。

委員：アウトリーチ事業の中に邦楽分野が少ない点が気になった。

指定管理者：現在、邦楽の鑑賞会を総務省の公共ホール活性化事業の一部として企画中である。

6 報告事項

(1) 令和5年度事業計画について（指定管理者）【資料C】

委員：今年で三田市文化芸術ビジョンが発表されてから2年目となるが、文化振興事業にどのように反映させていこうと計画しているか。

指定管理者：今年度の計画は「三田らしさ」に重きを置いたものとしており、地域の人材を積極的に登用した事業を展開するほか、全国的に著名な団体のメンバーに三田市出身のアーティスト等がいらっしまった場合にも積極的に出演を呼び掛けるよう努力している。共生の観点では、障害をもつ方が気兼ねなく来館し、公演を鑑賞できる体制を整え、最終的には、健常者と障害者が一緒に公演等を鑑賞できるような事業を展開することが目標である。

委員：多種多様な事業を展開しようとしていることは素晴らしいが、ホールで働く職員の労働環境はきちんと整えられているか。来館者の中には、職員に強い口調で対応される方もいらっしまったことと思う。

指定管理者：昨年度は社外の研修に3度職員を派遣した。障害者やご高齢の来館者に対しての対応について、社員の教育に力を入れている。業務は多忙を極めているが、ICTシステムの導入等により業務の効率化に務めている。

委員：かつては、各部門に企画担当のプロデューサーを置かれていたことと思うが、現在は、そのような専門員がいないなかで、企画力は低下しないものなのか。

指定管理者：プロデューサーがいないなかでも、弊社の職員が、これまで他施設の指定管理業務等で培ったノウハウを活用し、より魅力的な事業企画を実現できていると考えている。

委員：普段、文化芸術に触れる機会の少ない市民の方に郷の音ホールに来てもらうためのきっかけづくりとして、市民参加型の企画を検討してほしい。

委員：館の経年劣化による、修繕コストの増加が懸念されるが、市と指定管理者で十分に協議はなされているか。

事務局：大規模な修繕は、中長期的に市で実施を計画しており、指定管理者には予防修繕をお願いしている。

(2) その他

- ・欠席委員の評価シートは、揃い次第、事務局から各委員へ共有させていただくこととする。

7 閉会（～12：00）